

## 会 議 録 要 旨

会議名		令和2年度 第1回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時		2020年（令和2年）7月21日（火）午前10時00分～午前11時40分	
開催場所		本庁舎5-1, 5-2会議室	傍聴者数 0人
出席者	会長	神田 務	
	委員	井上 美鈴      大岩 英一      川田 兼子      木村 安代 齋藤 力良      中村 猛      野牧 喜久江      三輪 晋	
	事務局	鈴木下水道部長 [下水道総務課] 武井参事・林主幹・濱野主幹・指篁主幹・利根補佐・外山専任補佐 吉原主査・内海主任・松田主任 [下水道管路課] 近藤課長・藤原補佐・鈴木補佐・小松補佐 [下水道施設課] 真間参事・関野補佐・佐藤補佐	
議題及び公開・非公開の別	1 令和2年度 藤沢市下水道事業運営について 2 アセットマネジメント導入計画について 3 その他		
非公開の理由	(すべて公開)		
審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>1 令和2年度藤沢市下水道事業運営について 資料1に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>①経費回収率について、下水道使用料の改定を平成29年度に行っているが100%以上になっていない理由は。</p> <p>《回答》 平成29年度の改定時は、汚水・雨水の負担割合の見直しを行っていません。平成30年度が100%以下になった理由は、江の島の漏水事故などにより維持管理費が増えたことにより100%を超えることができませんでした。</p> <p>②昨年度の汚水・雨水の負担割合の見直しに伴い、経費区分の汚水の割合を随分下げたことで経費回収率が上がると思うが、令和2年が上がっているのはその理由なのか。</p> <p>《回答》 総務省の繰出基準に基づき割合を見直しした結果、汚水処理費が下がる結果になり見込みで104%と算出しています。</p> <p>③汚水の経費率が下がったのは藤沢市で決めた汚水の経費率があったのか、または浄化センターで実際検証したパーセントなのか。どうしてあのパーセントになったのか。</p> <p>《回答》 合流式の処理の分で雨水処理費の比率が上がったものと思われます。 国からでている負担割合の計算があり、それに基づいて計算した結果となります。</p> <p>④減債積立金が今どれくらいあるのか。 減債積立金に積み立てると内部留保が増える、貯金が増えると理解してよいか。</p> <p>《回答》 9月の議会で議決を経て、利益分の中から減債積立金へ積み立てていますが、積み立てた額はその翌年に全額取り崩している状況で、積み立てはありません。 減債積立金は、積み立てた翌年度の補填財源に使われるため留保資金は増加します。</p>		

審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>2 アセットマネジメント導入計画について 資料2-1～4に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>⑤新たな官民連携の手法の導入は、具体的にどのようなイメージか。</p> <p>《回答》 管路の維持管理の部分と、処理場・ポンプ場の維持管理の部分の委託の範囲を、包括民間委託で委託範囲を拡大していくイメージで、工事の発注、設計なども民間委託していくイメージです。具体的には令和5年をめどに導入を考えています。</p> <p>⑥異常気象により災害で、今、一番市民の関心が高いのは水害への取組だと思うが、どのように考えているのか。</p> <p>《回答》 老朽化や、雨水管理も含め最適なものを考えマネジメントを推進していきます。</p> <p>⑦インフラを再認識する議論が今盛んに起きており、国も国土強靱化計画を立ててきている。必要なものは前倒ししてでもやっていったほうがよいのではないか。</p> <p>《回答》 施策として、老朽化、浸水、地震対策などがある中でリスクの大きさや、その投資による財政シミュレーションにより、市民の皆様にご理解いただき事業を進めてまいります。</p> <p>⑧管渠では、地質や交通量などで50年もたないものもあるが、普通は50年以上もつものもある中で、50年で改良という前提で考えるとお金もかかり現実的ではない。ストックマネジメントで予防保全をやるのであれば、目標耐用年数以上もつものもあるため、分解修理をやっていき、これらのデータベース化は非常に大事だと思う。</p> <p>《回答》 ストックマネジメント計画をやっていくなかで、そのもの自体の重要性、影響度を鑑みて、それらの状態をしっかり確認し、適材適所で投資していく考えです。今後PDCAサイクルを回し的確なストックマネジメント計画を実施していきます。</p> <p>⑨管路施設の修繕、ポンプ施設の修繕など将来的に下水道料金に跳ね返ってくるのか。</p> <p>《回答》 現段階では、全体を網羅した考え方を方針として示したもので、今の調査状況でできるだけ効率的な経費で見込んだものです。アセットマネジメントの課題の中に、財政シミュレーションの構築、将来的な計画の策定など懸念されるところを解消、明らかにしていきたいと考えています。この実施方針を策定する段階で、将来予測をしたところ厳しい財政が見込まれました。将来その程度リスクを保つのか、そのリスクを保つため料金収入をあげ効率的に使うのか、今後明らかにし取り組みを進め、真摯に対応していきたい。</p> <p>⑩令和2年度予算のうちストックマネジメント計画に基づく事業予算はどのくらいか。</p> <p>《回答》 全体で約5億8,400万円で、修繕、調査、点検など収益的支出は約1,800万円、建設に関する資本的支出は約5億6,000万円です。</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 藤沢市下水道事業経営戦略の策定 令和2年2月に策定したことを報告。(参考資料1)</p> <p>(2) 藤沢市公共下水道事業の受益者負担金等に関する条例の制定について 令和2年6月議会で議決のうえ制定したことを報告。(参考資料2)</p> <p>(3) 令和2年度下水道PR事業について 令和2年度のPR事業内容を説明。(参考資料3)</p> <p>(4) 令和2年度藤沢市下水道運営審議会日程について 令和2年度の審議会日程を説明。(参考資料4)</p>
その他	